



令和6年8月2日

研修だより 27号

教師の成長は反省によって起こる

小笠原康晃

東京大学名誉教授佐藤学氏は、次のようにいっています。

「教師は反省的实践家である。

終わった後の授業の反省、生徒指導対応の反省など、日々反省をしながら実践を重ねて行く。

反省を個人や集団でやることで、教師としての力量が上がっていく。」
ということです。

先日の校内研修の中で、熱中症対応研修がありました。

研修後に、齋藤先生を中心にふりかえりが行われました。

その中で、

「もっとこうしたほうがよかったのではないか。」

「私はもっとこうすべきだった。」

という意見が何個も出されました。

その話を聞きながら、私は「教師は反省的实践家である」という言葉を思い出しました。

大切なのは「反省すること」です。

反省をして、自分で他の可能性のことを考える。

他の先生から助言や指導をもらい、自分の実践を振り返る。

どちらも教師の成長に繋がります。

だからこそ、「対話」が大切になってきます。

授業のことでの対話。

生徒指導のことでの対話。

校務分掌のことでの対話。

いろいろな対話をするのが大切です。

対話すると、自然に自分の実践を反省するきっかけになります。

または、自分の取組に意見をもらうきっかけになります。

普段とはちがひ、ゆとりがある夏休みだからこそ、対話をたくさんしてください。

ゆとりがない普段の日であっても、学年団を中心に対話を意識してみてください。

それは、「教師の成長」に繋がりますし、「研修の日常化」にも繋がると思います。